WE LOVE TOTTORI
令和新時代創造県民運動
地域づくりの主人公へ！

■72□

山ラボ

（江府町）

純国産メンマ、連携開発へ

江府町の柿原集落を拠点とし、放置竹林の問題を解決する一環でメンマ作りに取り組んでいる。昨年、今年と2年続けて県の令和新時代創造県民運動推進補助金を活用。地元住民らの協力を得て、既に塩漬けメンマを商品化。鳥取県内の企業との連携を見据え、味付けの純国産メンマの開発を目指している。

竹に興味を持っていた代表の岩崎勇さん(49)と妻の智恵さん(53)は6年前、神戸市から江府町に移住した。他の植物の成長を阻害したり土砂災害の原因になったりする放置竹林を整備するため、柿原集落では竹炭作りが行われていたが、高齢化で活動を終えようとしていた。

岩崎さん夫婦は有志に集まってもらって炭焼きを継続。同時に伸びた竹を捨てるのではなく、食べて竹林整備につなげようとメンマに着目した。「純国産メンマプロジェクト」を展開する福岡県糸島市の日高栄治さんを招き、メンマ作りに乗り出した。

今年5月、柿原集落でメンマ作りの体験会を開催。高さ約2㍍に成長した幼竹をゆで、塩に漬けて真空パックに詰めた「のびたけぇ」が完成した。

新たなメンマ商品の開発に向け今月9日、柿原の公民館で梅やサンショウ、エゴマなどで味付けした8種類のメンマを地域住民ら約40人が試食。それぞれ気に入った3種類を用紙に記入して投票し、今後の商品化の参考にした。

岩崎代表は「鳥取県内の多くの地域が竹の繁茂で困っている。メンマにして食べることで、楽しみながら問題に興味を持ってもらえる。各地に出向き、メンマの作り方を伝えて解決方法を一緒に考えたい」と話している。

メンマの投票結果の発表で盛り上がる住民ら＝9日、江府町柿原

(C) 新日本海新聞社　無断複製・転載を禁じます